

泌尿器科研修

泌尿器科ローテーション研修目標

症状、身体所見、検査所見より泌尿器科疾患の鑑別診断をおこなない確な治療をおこなう能力を身につける

経験すべき診察法・検査・治療・疾患・病態

1. 鑑別診断のための泌尿器科的な診察ができるために
 - ① 泌尿器科領域の解剖と生理について説明できる
 - ② 泌尿器科疾患の症状についての的確な問診ができる
 - ③ 泌尿器の視診、触診（腎・腹部、前立腺、陰嚢内容触診など）ができる
 - ④ 尿閉、尿管結石、血尿タンポナーデ、精索捻転などの救急疾患の診断ができる

2. 診察にくわえ的確な検査により鑑別診断を行い、速やかな治療を実施することができるように
 - ① 検尿検査を実施できる
 - ② 適切な血液検査の指示ができる
 - ③ 内分泌学的検査を計画し指示することができる
 - ④ ウロダイナミクス（尿流測定など）検査ができる
 - ⑤ 内視鏡検査の適応を述べ検査に参加できる
 - ⑥ X線検査（尿道膀胱造影、排泄性腎盂撮影、血管造影、CT など）の適応を述べ検査結果の読影ができる
 - ⑦ 超音波検査を実施することができる
 - ⑧ 核医学検査（レノグラム、骨シンチなど）の適応を述べ読影ができる
 - ⑨ MRI の適応を述べ読影ができる

3. 鑑別診断をおこなない確な治療がおこなえるため経験すべき病態・疾患
 - ① 前立腺肥大症（B）
 - ② 尿路結石（B）
 - ③ 尿路性器感染症（B）
 - ④ 神経因性膀胱（B）
 - ⑤ 尿路性器悪性腫瘍（B）

4. 泌尿器科疾患の診断に基づき適切な治療を行うことができるために
 - ① 排尿障害や蓄尿障害を評価し適切な投薬ができる
 - ② カテーテル留置の手技ができる
 - ③ ブジーの手技ができる
 - ④ 陰嚢および膀胱穿刺の手技ができる
 - ⑤ 経尿道的手術（膀胱、前立腺）の適応につき説明し手術に参加できる
 - ⑥ 観血的手術（副腎、腎、尿管、膀胱、前立腺など）の適応につき説明し手術に参加できる
 - ⑦ 尿路変更手術の適応につき説明し手術に参加できる